各位

2026 年 10 月 19 日
株式会社エルテス
(証券コード：3967　東証グロース)

2027 年 2 月期第 2 四半期 決算説明会動画及び書き起こしの公開のお知らせ

「安全なデジタル社会をつくり、日本を前進させ続ける。」をミッションに掲げる、株式会社エルテス（本社：東京都千代田区、代表取締役：菅原貴弘、証券コード：3967、以下「エルテス」）は、2026 年 10 月 14 日（水）に開催しました「2027 年 2 月期第 2 四半期オンライン決算説明会」の動画ならびに書き起こしを公開いたしましたので、お知らせいたします。

◆ ◆ ◆

■オンライン決算説明会の概要

1．日　時　　2026 年 10 月 14 日（水）　17:30～18:30
2．形　式　　Zoom ウェビナーによるオンライン配信
3．登壇者　　取締役副社長 伊藤 豊
4．内　容　　2027 年 2 月期第 2 四半期決算説明および質疑応答

オンライン決算説明会の動画は以下のエルテスのコーポレートサイトよりご覧いただけます。
決算説明動画ライブラリ：https://eltes.co.jp/ir/library/video
（書き起こしは、次ページ以降に記載しております）

＜参考情報＞
「2027 年 2 月期第 2 四半期決算短信」はこちら
「2027 年 2 月期第 2 四半期決算説明資料」はこちら

なお、10 日 23 日に決算 FAQ の公開も予定しております。

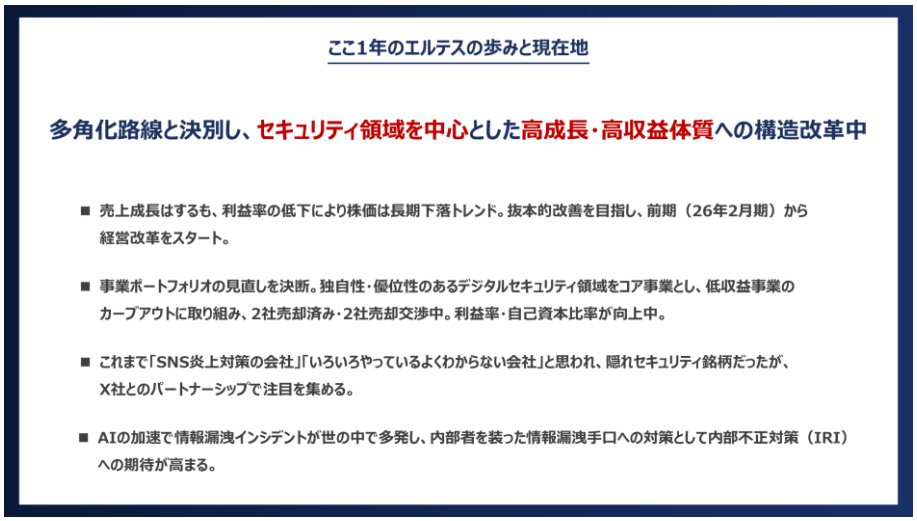
◆ ◆ ◆

[エルテスグループ関連サイト]
デジタルリスク対策サービス一覧：https://eltes-solution.jp/
採用情報：https://eltes.co.jp/recruit
公式オウンドメディア「エルテスの道」：https://eltes.co.jp/ownedmedia
公式 X（旧 Twitter）：https://x.com/eltes_irpr

■決算説明会（書き起こし）

皆様、本日はお忙しい中、株式会社エルテスの 2027 年 2 月期第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。取締役副社長の伊藤でございます。

本日は、先ほど開示いたしました「2027 年 2 月期 第 2 四半期決算説明資料」に基づき、上期の業績ハイライト、ビジネスのアップデートについて説明いたします。



今回はじめて当社に注目いただいた投資家の皆様も多いタイミングかと思いますので、本題に入る前に、まず当社が現在進めている大きな変革、いわゆる「現在地」について一枚でお伝えさせてください。

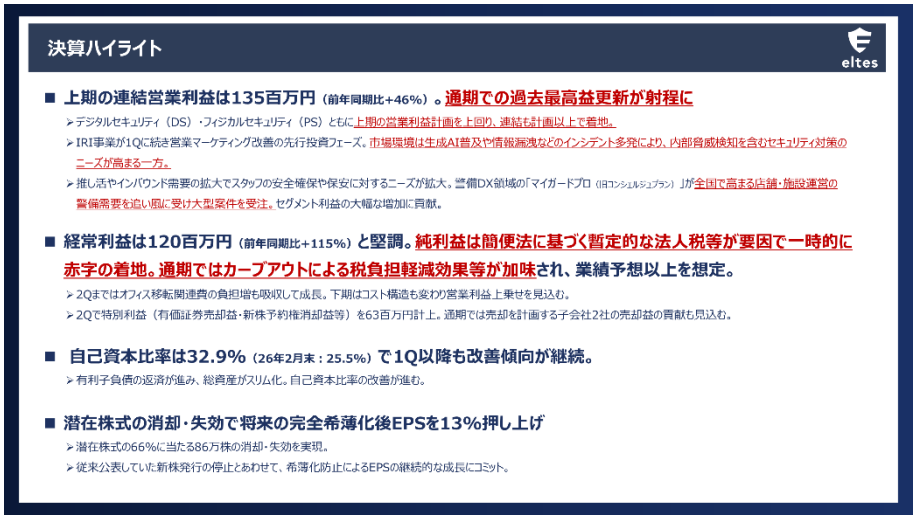
当社は現在、過去の多角化路線と決別し、独自性と高い優位性を持つ「デジタルセキュリティ」および「フィジカルセキュリティ」を中心とした高成長・高収益体質への構造改革を全力で推進しております。低収益事業のカーブアウトを進め、利益率と自己資本比率は着実に向上しております。

かつては「SNS 炎上対策の会社」あるいは「事業領域が広すぎて分かりにくい会社」というイメージを持たれがちでしたが、昨年までは私どものIR資料上も「隠れセキュリティ銘柄」と自虐的に言っていたのですが、10 月 1 日に発表した X（旧 Twitter）社とのパートナーシップ締結などを通じ、市場での注目度も大きく高まっております。なのでもう隠れておりません。ちゃんとセキュリティ関連とみなされるようになりました。また、世の中では生成 AI の普及や内部不正による情報漏洩インシデントが多発しており、当社の内部不正対策（IRI）への期待はこれまでになく高まっております。

本日は、こうした構造改革が確実に成果として表れ始めた上期の決算内容を報告いたします。

本日のアジェンダはご覧の通りです。決算ハイライト、業績詳細、ビジネスアップデートの順でご説明いたします。

1. 決算ハイライト



それでは、決算ハイライトです。上期の連結営業利益は 135 百万円、前年同期比で+46%の大幅な増益となり、通期での過去最高益更新が十分に射程圏内に入ってまいりました。デジタルセキュリティ、フィジカルセキュリティの事業が計画を上回って推移したことが牽引しております。

セグメント別のポイントといたしましては、まずデジタルセキュリティにおける内部不正対策（IRI）事業において、先行投資を行いながらも、生成 AI の普及等に伴う顧客の脅威検知ニーズの高まりを背景に順調に進捗しております。また、フィジカルセキュリティ事業では、推し活やインバウンド需要の拡大に伴い、8 月にリブランドした警備 DX 領域の「マイガードプロ（旧コンシェルジュプラン）」が全国で大型案件を獲得し、セグメント利益の大幅増加に大きく貢献いたしました。

経常利益につきましても 120 百万円（前年同期比+115%）と非常に堅調です。一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては 19 百万円の赤字となっております。これは中間期においては簡便法に基づく一時的な法人税等の計上を形式的にしている関係で、実際の通期の着地見込みよりも多い金額の税金を一時的に計上しているからです。通期ではカーブアウトに伴う税負担軽減効果等が加味されるため、現在公表している業績予想（当期純利益で 180 百万円）以上の着地を見込んでおります。

さらに、有利子負債の返済が進んだことで総資産がスリム化し、自己資本比率は前期末の 25.5%から 32.9%へと大幅に改善いたしました。自己資本比率が、20%台だと一般的には少し財務の健全性に懸念がつくというところかと思いますが、しっかりと 30%以上に改善しております。また資本政策面では、8 月に発表しておりますが、発行済株式数の 14%に当たる 86 万株の新株予約権の消却・失効を実施し、将来の完全希薄化後 EPS を 13%押し上げる施策を実行いたしました。

決算ハイライト | **2027年2月期 連結業績予想の上方修正（9月14日開示）**

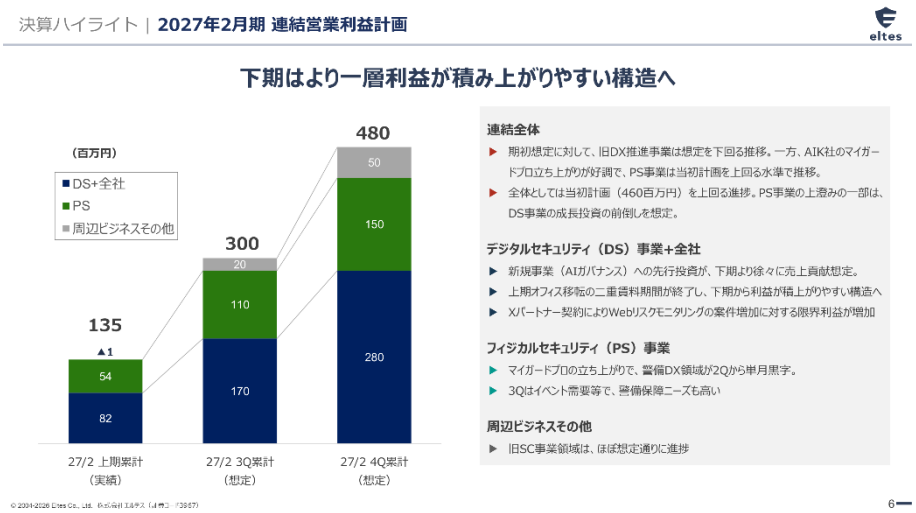
過去最高を更新する計画だった営業利益をさらに20百万円積み上げ
親会社株主に帰属する純利益は、コーポレートアクションによる特別利益計上などにより80百万円を増額

	2026年2月期 通期実績	2027年2月期 当初予想	2027年2月期 修正予想	当初差	当初比	コメント
売上高	8,958	8,500	**8,500**	±0	–	■ ポートフォリオ再編によるカーブアウトの影響を考慮し据え置き
営業利益	431	460	**480**	+20	+4.3%	■ デジタルセキュリティ・フィジカルセキュリティを中心に営業利益は想定を上回るペースで推移。 ■ 警備DX領域の「マイガードプロ」が計画以上に実績を積み上げ営業利益に寄与
経常利益	346	370	**390**	+20	+5.4%	
純利益	▲168	100	**180**	+80	+80.0%	■ 投資有価証券売却益・新株予約権消却益を特別利益として計上し、保守的だった当初計画の再精査

© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード：3967）
5

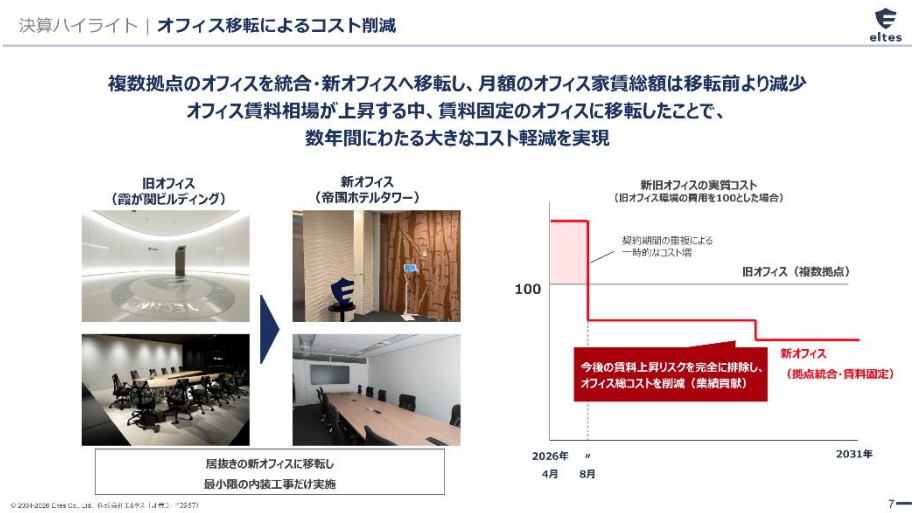
こうした上期の好調な進捗を受けまして、当社は 9 月 14 日に通期連結業績予想の上方修正を発表しております。

売上高はポートフォリオ再編（カーブアウトによる会社の減少）の影響を考慮し 8,500 百万円と据え置いております。営業利益は当初計画の過去最高益（460 百万円）からさらに 20 百万円積み上げ、480 百万円へと増額いたしました。また、投資有価証券売却益や新株予約権消却益などの特別利益を計上したことから、純利益についても当初予想の 100 百万円から 80.0%増となる 180 百万円へと大幅に上方修正しております。



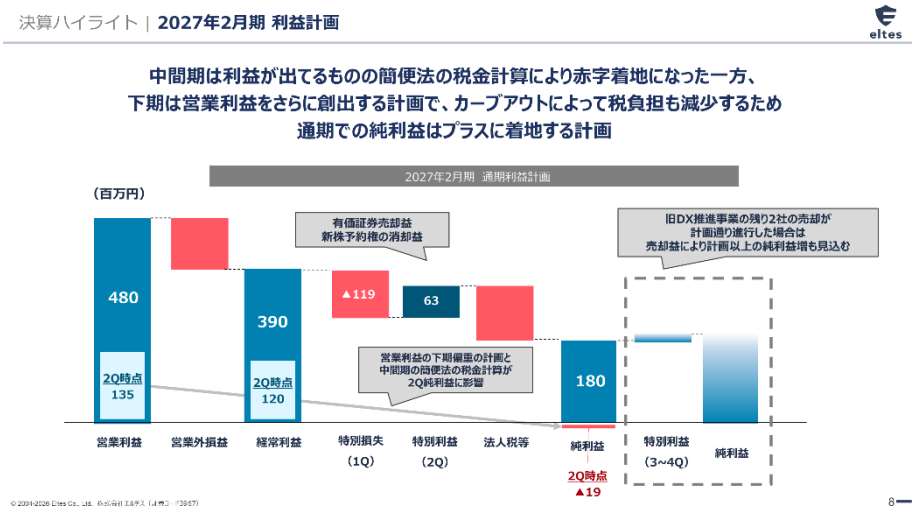
こちらのグラフは、営業利益の四半期ごとの推移と下期に向けた見通しを示したものです。上期（2Q 累計）実績の 135 百万円に対し、下期はさらに利益が積み上がりやすい構造となっております。

デジタルセキュリティ領域では、上期に発生していたオフィス移転に伴う二重家賃の負担が解消すること、また X 社との直接契約による限界利益率の向上が下期から寄与してまいります。 フィジカルセキュリティ領域におきましても、警備 DX の「マイガードプロ」により単月黒字化を達成しており、3Q のイベント需要期に向けてさらなる利益貢献を見込んでおります。これらの要因から、下期にかけて収益性が一気に高まる計画となっております。



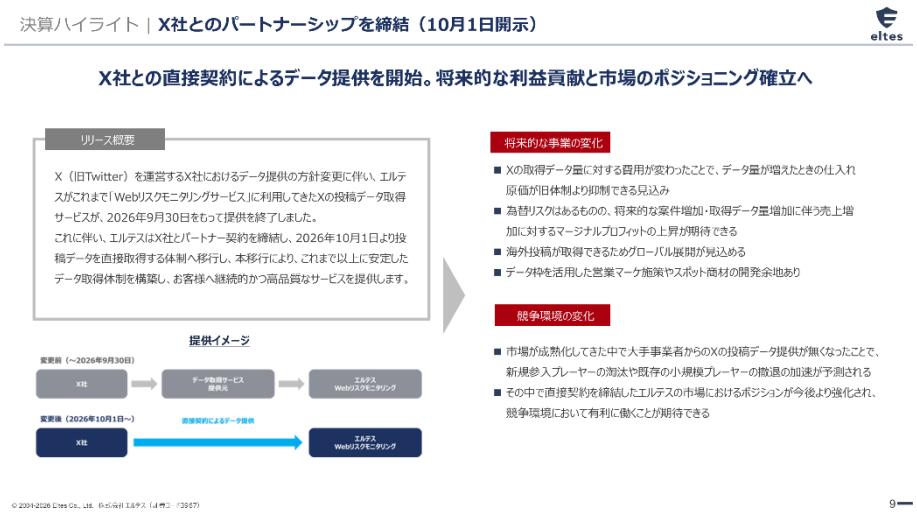
こちらはすでに 1Q 決算説明会のタイミングでもお伝えしている内容ではありますが、コスト面での構造改革の一環として、オフィス移転について補足いたします。

当社はこれまで複数に分散していた拠点を統合し、帝国ホテルタワーの新オフィスへ移転いたしました。実はかなり良い条件でお借りできた定借の居抜き物件でして内装工事費を最小限に抑え、賃料も固定された契約を結ぶことができました。今年の 8 月までは旧オフィスとの重複による二重家賃期間が発生しておりましたが、9 月以降はこの一時的費用が解消され、今後のオフィス関連総コストの削減ならびに賃料上昇リスクの排除が実現し、下期以降の業績に直接貢献してまいります。



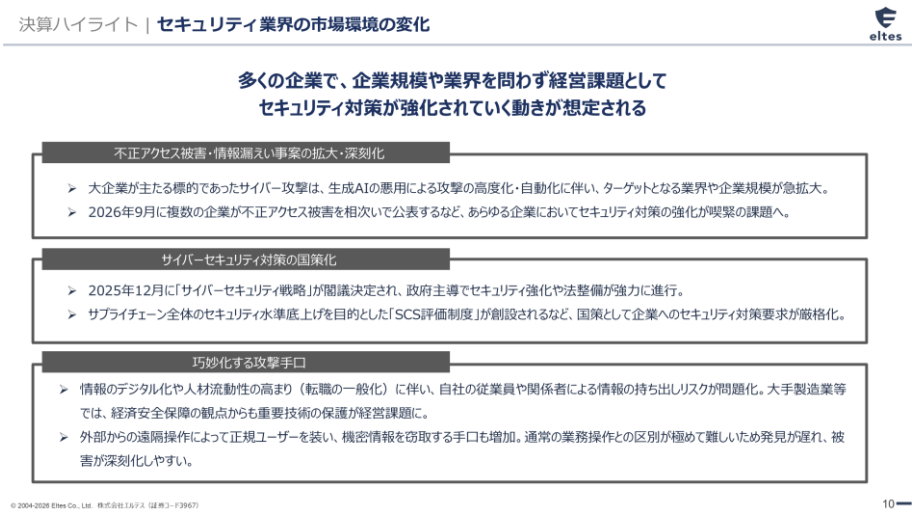
続いて、当期の純利益構造の全体像です。営業利益 480 百万円、経常利益 390 百万円に対し、特別利益として 2Q に有価証券売却益および新株予約権消却益 63 百万円を計上しております。元々 1Q に JDX のカーブアウトで 119 百万円の特別損失が出ておりますが、法人税等のところは、中間期においては簡便法で計算している関係で、正しく反映されていないのが実態です。1Q のカーブアウトによる特別損失がらみの税務上の損失が大きいのもあり、通期での税負担はかなり軽くなる見通しですが、現時点では確かなことのお伝えが難しく保守的に見積もっております。

また、現在売却交渉を進めている旧 DX 推進事業の子会社 2 社のカーブアウトが計画通り進行した場合には、さらに特別利益が上乗せされ、計画以上の純利益増となる可能性もございます。こちらも、不確かな部分がまだありますので、最低限の保守的なラインとして見込んでいます。という意味では、税負担、今後の売却益ともに保守的に見込んでいるため、現在公表している 1.8 億円という純利益予想を上回る形での着地はかなり可能性が高いと思っております。2Q の純利益がマイナス 19 百万円と、通期とのギャップが大きく非常に分かりにくいのですが、こちらに関しては、しっかりと自信を持って黒字にしていけると考えております。

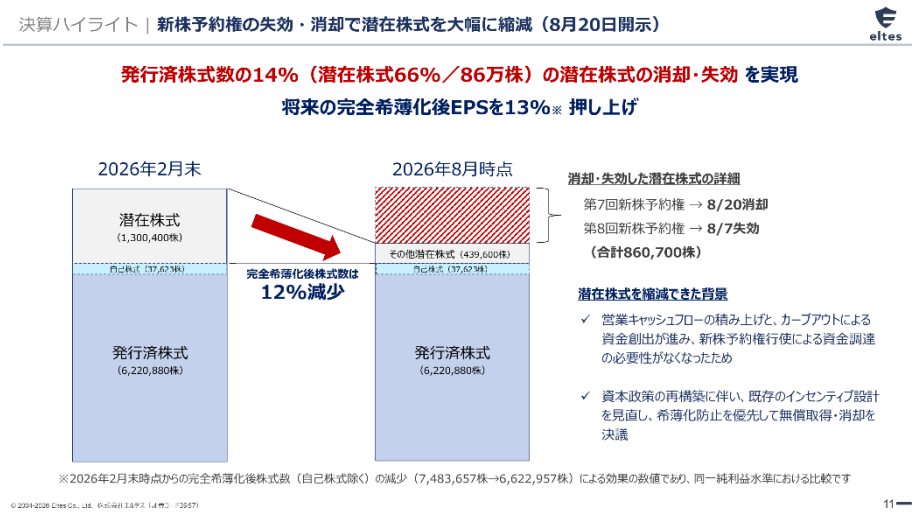


10 月 1 日に開示いたしました非常に重要なトピックスについてご説明いたします。当社は、X（旧Twitter）を運営するX社と直接のパートナー契約を締結いたしました。従来はデータ取得サービス提供元である大手の会社様を介しておりましたが、10 月 1 日より X 社から直接投稿データを取得する体制へと移行しております。

この見直しによるメリットは 3 点ございます。 1 点目は、仕入れ原価の抑制と限界利益率（マージナルプロフィット）の向上です。今後、案件やデータ量が増加するほど収益性が高まる構造になりました。 2 点目は、海外投稿データの取得が可能となったことで、グローバル展開への道が拓けた点です。 3 点目は、市場における競争優位性です。データ提供体制の変更に伴い、小規模事業者や新規参入者の淘汰が進むと予想しております。市場の成熟化に伴い残存者利益のさらなる獲得が見込まれると同時に、直接契約を締結した当社は市場でのポジションをより強固なものにできると考えております。

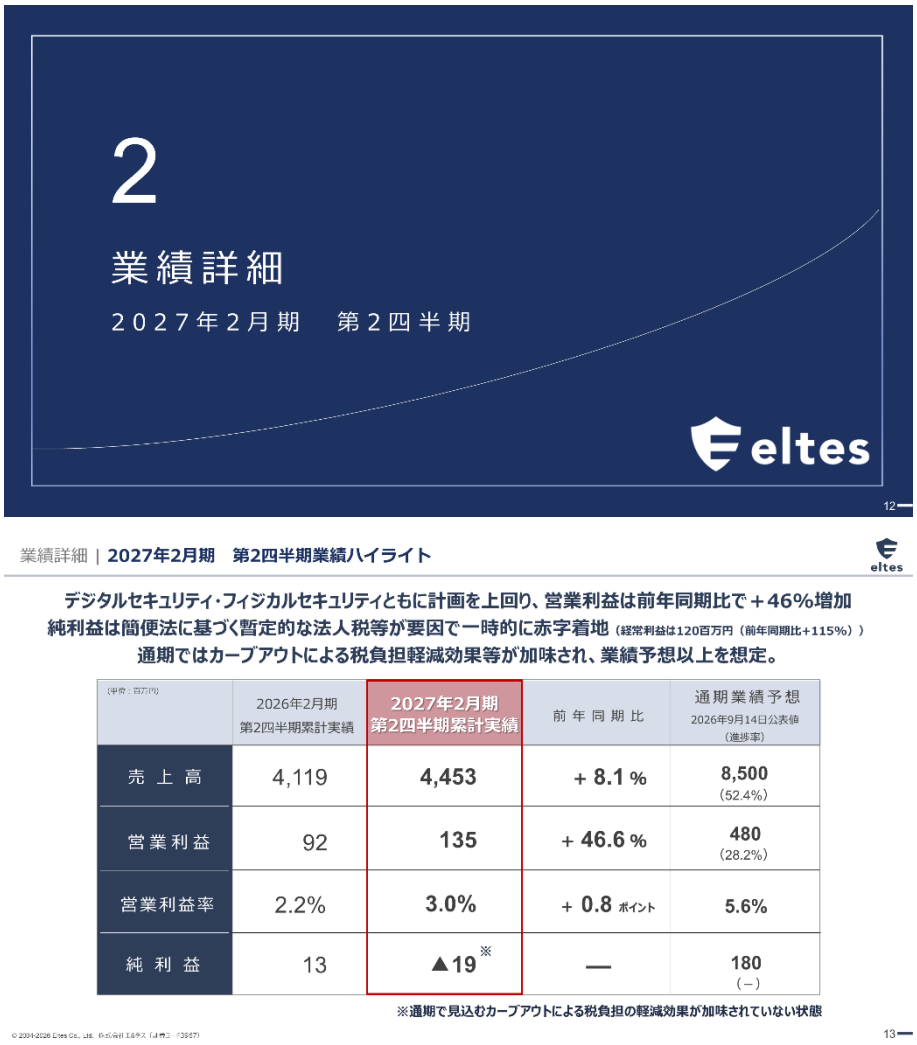


昨今のセキュリティ業界の変化など当社を取り巻く市場環境につきましても、極めて強力な追い風が吹いております。第一に、生成 AI の悪用によるサイバー攻撃の高度化・自動化に伴い、不正アクセスや情報漏洩被害が急増しております。 第二に、政府による「サイバーセキュリティ戦略」の閣議決定や「SCS 評価制度」の創設など、国策として企業のセキュリティ対策要求が厳格化しております。 第三に、大転職時代の到来や働き方の変化に伴い、自社の従業員や関係者による「営業秘密・技術情報の持ち出し」という内部脅威のリスクが深刻な経営課題となっております。外部攻撃対策だけでなく、最近では内部になりすました形での攻撃や AI エージェント自体が内部脅威として認識すべきといった論調も高まり、こうした内部不正対策への需要が急速に高まっており、当社の事業領域に対するニーズは極めて旺盛です。



株主価値の向上に向けた資本政策の進捗です。当社は８月に、第７回および第８回の新株予約権、合計 86 万株分（発行済株式数の 14%、潜在株式の 66%に相当）を消却・失効させました。これにより、完全希薄化後株式数は 12%減少し、将来の完全希薄化後 EPS を 13%押し上げる効果を生み出しております。営業キャッシュフローの蓄積とカーブアウトによる資金創出が進む見込みから、希薄化を伴う資金調達の必要性がなくなったため、希薄化防止を最優先した意思決定を行った結果でございます。

2. 業績詳細



ここからは、2027 年 2 月期第 2 四半期の実績詳細について数字を交えてご説明いたします。上期の連結売上高は 4,453 百万円（前年同期比+8.1%）、営業利益は 135 百万円（同+46.6%）となりました。売上高は上期として過去最高を記録しております。

業績詳細 | **2027年2月期　第2四半期業績ハイライト（セグメント）**

		2027年2月期 第2四半期実績（前年同期比）		業績予想 2027年2月期（進捗率）		ポイント
連 結	売上高	4,453百万円	(+333百万円)	**8,500百万円**	(52.4%)	▶ カーブアウトでグループ会社が減少しつつも、2Q累計の売上高は過去最高を記録 ▶ 営業利益も社内計画を上回る着地 ▶ 下期はオフィス移転の二重賃料解消で良化
	営業利益	135百万円	(+43百万円)	**480百万円**	(28.2%)	
デジタルセキュリティ（旧デジタルリスク事業）	売上高	1,400百万円	(+45百万円)	**2,900百万円**	(48.3%)	▶ 営業マーケティングへの投資が引き続き先行するも生成AIの普及が事業環境には追い風 ▶ SRは低解約率とMRRの積み上げが奏功
	営業利益	419百万円	(▲85百万円)	**950百万円**	(44.2%)	
フィジカルセキュリティ（旧AIセキュリティ事業）	売上高	1,259百万円	(+215百万円)	**2,400百万円**	(52.5%)	▶ 警備DX領域の「マイガードプロ」（旧コンシェルジュプラン）が好調。計画を上回る形で実績を積み上げ、単月黒字化も達成
	営業利益	54百万円	(+35百万円)	**95百万円** ※2	(57.4%)	
周辺ビジネスその他※1（旧DX推進事業・旧スマートシティ事業）	売上高	1,839百万円	(+56百万円)	**3,200百万円**	(57.5%)	▶ カーブアウトで2社連結除外した中で売上高は前年同水準で着地
	営業利益	▲1百万円	(+103百万円)	**75百万円**	(—)	
全社費用（共通管理）		337百万円	(+10百万円)	**640百万円**	(52.7%)	▶ オフィス移転に伴う二重賃料が8月まで発生と株主還元（株主優待）で23百万円を計上。全社費用全体ではほぼ前年同水準

※1 セグメント区分の変更に伴い、旧DX推進事業・旧スマートシティ事業を「周辺ビジネスその他」にまとめております。
※2 9/14開示の「2027年2月期業績予想の修正（上方修正）に関するお知らせ」に伴い、セグメントごとの業績予想も調整しております。

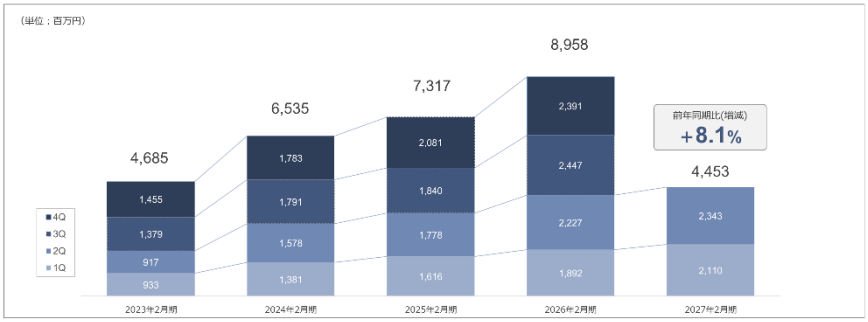
© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（上場コード3967）

セグメント別の内訳をご説明いたします。 まず「デジタルセキュリティ事業」は、売上高 1,400 百万円（前年同期比+3.3%）、セグメント利益 419 百万円となりました。認知向上や AI ガバナンス等の新規施策への先行投資を行いつつも、高い利益率を維持しております。「フィジカルセキュリティ事業」は、売上高 1,259 百万円（前年同期比+20.6%）、セグメント利益 54 百万円（前年同期比+35 百万円）と大幅な増益を達成いたしました。警備 DX「マイガードプロ」の大型案件獲得が大きく寄与しております。「周辺ビジネスその他」につきましては、2 社を連結除外（カーブアウト）したものの、売上高は前年同水準の 1,839 百万円を確保いたしました。全社費用は 337 百万円となり、オフィス移転の二重賃料や株主優待費用を吸収しながら前年並みにコントロールできております。

業績詳細 | **連結決算概況【売上高】**

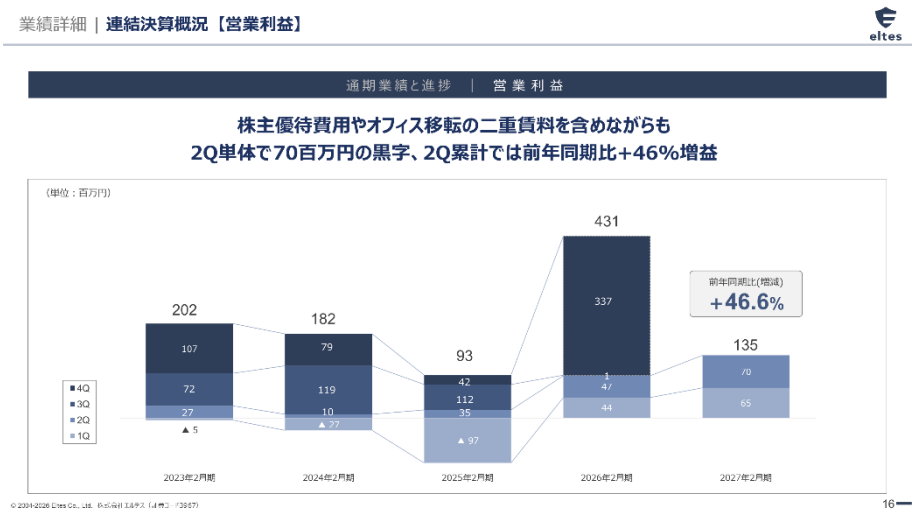
通期業績と進捗 | 売上高

カーブアウトで2社を連結除外しながらも、堅調なデジタルセキュリティに加えて
フィジカルセキュリティ（警備DX領域）が大きく伸ばし、2Q累計売上高の過去最高を記録



© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（上場コード3967）

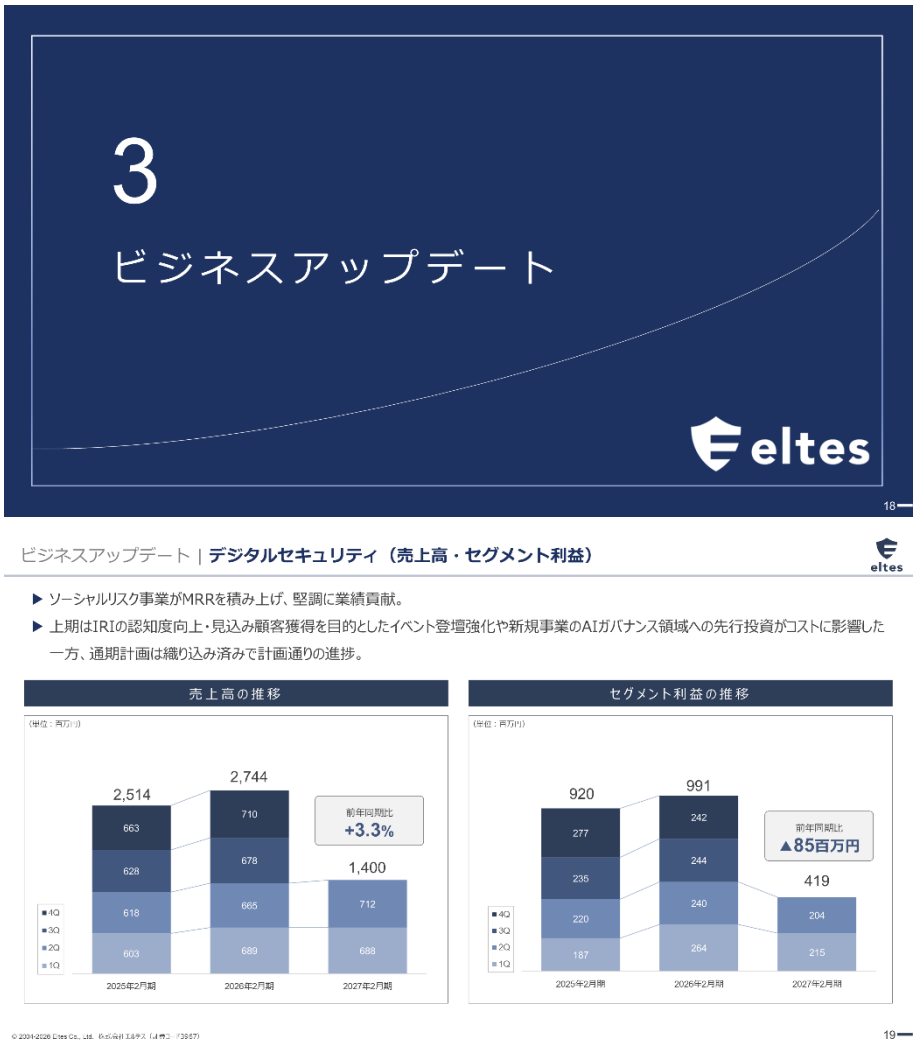
売上高の四半期推移グラフをご覧ください。非コア事業のカーブアウトによってグループ会社数が減少しているにもかかわらず、デジタルセキュリティの堅調な伸びと、フィジカルセキュリティ（警備 DX）の急成長により、第 2 四半期累計として過去最高の売上高を更新することができました。



営業利益の推移です。第 2 四半期単体におきましても 70 百万円の黒字を確保し、上期累計では前年同期比+46.6%増の 135 百万円となりました。構造改革の成果が着実に利益として結実し始めております。

損益計算書と貸借対照表の概要です。B/S のポイントといたしましては、1Q に引き続き有利子負債の削減が進み、資産合計は前期末の 7,133 百万円から 5,435 百万円へとスリム化いたしました。 純資産は 1,794 百万円を確保し、自己資本比率は 32.9%まで向上しております。着実に筋肉質なバランスシートへと変貌を遂げております。

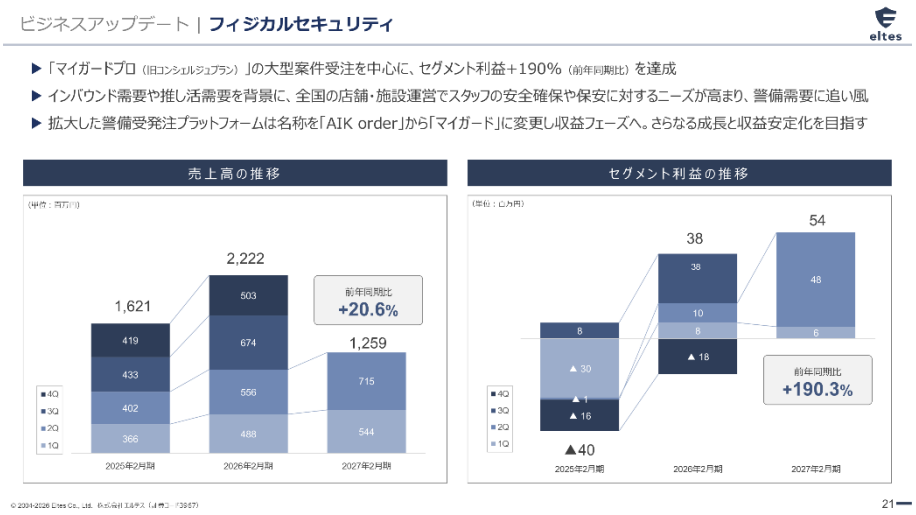
3. ビジネスアップデート



続いて、各事業のビジネスアップデートです。デジタルセキュリティ領域の売上高は 1,400 百万円、セグメント利益は 419 百万円となりました。 ソーシャルリスク（SR）事業がストック収入（MRR）を着実に積み上げ、堅調な基盤を形成しております。インターナルリスク（IRI）事業での見込み顧客獲得に向けたイベント出展や AI ガバナンス領域への先行投資を行っておりますが、これらは通期計画に織り込み済みであり、下期の売上・利益貢献に繋がってまいります。

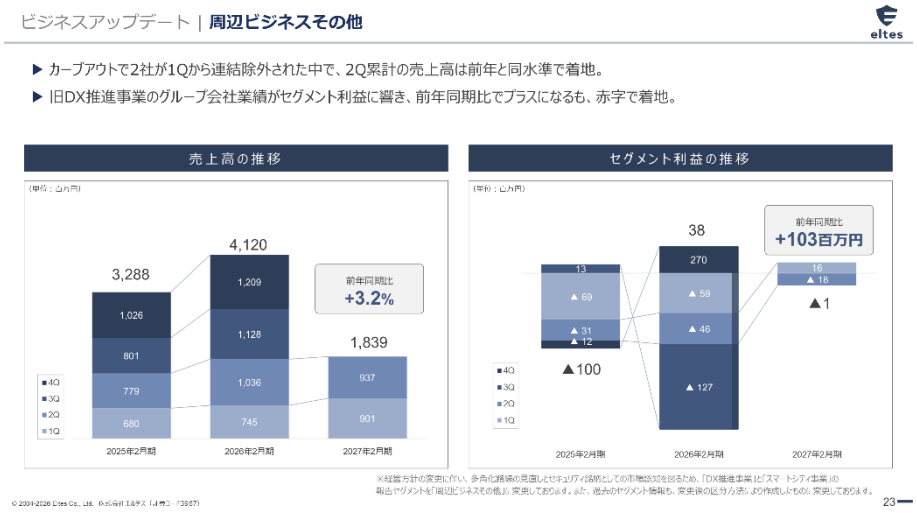
事業 KPI の進捗です。安定基盤である ARR（年間経常収益）は 26 年 8 月時点で 25.0 億円となり、通期目標の 27.6 億円に向けて着実に推移しております。 成長エンジンである内部脅威検知サービスの分析 ID 数は 29.3 万 ID に達し、目標の 33.0 万 ID に向け順調に拡大しております。

サービス面では、ソーシャルリスク（SR）事業において「AI ガバナンス」などの新領域が立ち上がりつつあるほか、先ほど申し上げた X 社との直接契約により、さらなるサービス品質の向上と収益性の向上が期待できます。



次に、非常に好調なフィジカルセキュリティ事業です。上期の売上高は前年同期比+20.6%の 1,259 百万円、セグメント利益は+190.3%増の 54 百万円と劇的な成長を遂げました。

この好調を牽引しているのが、警備 DX 領域の「マイガードプロ（旧コンシェルジュプラン）」です。 現在、全国でインバウンド需要やポップアップストア、大型イベントが活況を呈しており、店舗や施設の安全確保ニーズが急増しております。当社グループの AIK 社が持つ全国 700 社以上の警備会社ネットワークを活用し、顧客に対して全国一括の手配・運用から改善提案までをワンストップで提供できる点が強みであり、競合に対して非常に高い優位性を誇っていると考えております。



周辺ビジネスその他領域です。多角化路線の見直しに伴い、「DX 推進事業」「スマートシティ事業」をこのセグメントに集約しております。1Q から 2 社を連結除外いたしましたが、売上高は 1,839 百万円（前年同期比+3.2%）と前年並みを維持いたしました。セグメント利益はマイナス 1 百万円となりましたが、前年同期（マイナス 104 百万円）からは大幅に改善しております。残る子会社の売却・カーブアウトにつきましても、計画に沿って着実に交渉を進めております。

ビジネスアップデート | **メディア掲載（第2四半期：6月～8月）**

積極的な広報活動が奏功し、当社事業が関与するセキュリティ課題に対して複数メディアが取り上げ

公開日	メディア	記事タイトル
2026年6月5日	ニッキン	エルテス、不正予兆検知に注目集まる　生損保の情報持ち出し波及
2026年7月3日	西日本新聞	『2分以内に投稿』ルール、失うモラル　若者に浸透の『ビーリアル』情報漏えいや炎上事例
2026年7月8日	読売新聞	従業員の『シャドーＡＩ』利用に悩める企業…機密情報の漏えいリスク、開発中の情報を中国ＡＩに入力した例も
2026年7月9日	NEWS PICKS	【若者心理】ビーリアルで情報漏洩『オトナが知らない』裏事情
2026年8月8日	テレビ朝日「グッド！モーニング」	4月の『ネット炎上』前年比で倍増　過去5年で最多　新入社員による不適切投稿が問題に
2026年8月10日	月刊総務	令和の情報漏えいはSNSから始まる　私的投稿に潜む企業リスク
2026年8月20日	東洋経済オンライン	32歳社員「8分で転職先への手土産を入手」、"数億円"注ぎ込んだ独自技術が競合に奪われ、発覚は半年後…内部不正の恐怖
2026年8月21日	週刊 金融財政事情	社員による情報持ち出し事案の分析で見えてきた『穴』

© 2004-2026 Eltes Co., Ltd.　株式会社エルテス（証券コード3967）

24

当社の事業や取り組みに対する社会的関心の高さは、メディア掲載実績にも表れております。6 月から 8 月の 2Q 期間中、ニッキン、読売新聞、NewsPicks、テレビ朝日「グッド！モーニング」、東洋経済オンラインなど、多くの主要メディアにて当社の内部不正対策やシャドーAI リスク、SNS 炎上対策に関する取材記事が掲載されました。積極的な広報活動を通じ、市場での認知度と信頼性を高めております。

ビジネスアップデート | **IR活動**

個人投資家を中心とした中長期的な株主層の拡大を目指し、資本政策の実行と積極的な対話を継続実施

7/28　株主優待制度の拡充を発表

個人投資家層の拡大と中長期的な株式保有を促進するため、株主優待制度を見直しました。優待対象の保有株式数の下限を引き下げ400株以上800株未満」の区分を新設するとともに、安定した投資家獲得を目指して、全区分で「継続保有期間・半年以上」を条件とする制度へ変更しました。

株主優待制度の拡充及び変更に関する決定について

7/29　個人投資家向けIR説明会「湘南投資勉強会オンライン」に登壇

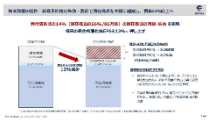
個人投資家向けの勉強会に、取締役副社長の伊藤豊が登壇しました。直近の業績動向と、6月25日に発表した新たな資本政策について詳しく説明しました。

株式会社エルテス(証券コード:3967)に登壇者：取締役副社長 伊藤 豊 氏（湘南投資勉強会オンライン）

8/20　潜在株式の大幅な縮減と将来EPS向上に向けた進捗を報告

新株予約権の消却・失効により、発行済株式の14%（約86万株）に相当する潜在株式の削減を実現いたしました。営業キャッシュフローの積み上げ等により新株予約権による資金調達の必要性がなくなったことを背景としており、将来の完全希薄化後EPSを13%押し上げる見込みです。

資本政策の進捗報告～発行済株式の14%の潜在株式を削減し、将来EPS向上へ～



© 2004-2026 Eltes Co., Ltd.　株式会社エルテス（証券コード3967）

25

最後に、IR 活動および株主還元についての進捗です。当社は中長期的な株主層の拡大を目指し、株主との対話を強化しております。 7 月には株主優待制度の拡充を発表し、保有株式数の下限を「400 株以上」へ引き下げるとともに、より幅広い投資家層に長期保有していただける設計へと見直しました。また、7 月 29 日には私自身が「湘南投資勉強会オンライン」に登壇し、個人投資家の皆様へ当社の構造改革と成長戦略を直接説明させていただきました。 さらに 8 月には、先ほど申し上げた潜在株式 14%の消却・失効を実施し、希薄化リスクの排除と EPS 向上への強いコミットメントを示しております。

4. 3ヵ年経営計画　進捗状況

最後に今年の 4 月に公表した 3 か年経営計画についても簡単にふれます。コンセプトは「Eltes Lean Transformation　～量から質へ～」です。3 年で営業利益率 12%以上、営業利益 9 億円以上、自己資本比率 40%以上という財務目標を掲げています。

3ヵ年経営計画 | **7つの重点施策**

Eltes Lean Transformation を推進する7つの重点施策

1	**成長事業であるIRI事業の拡大**	高い収益性を持つ成長事業の拡大で、全体的な収益性を高める
2	**新たな成長事業の育成**	成長が鈍化するSR事業のアセットを活用した成長事業の育成
3	**ポートフォリオ再構築**	一部事業のカーブアウトも視野に入れて、高収益事業中心のポートフォリオ変革
4	**規律ある財務戦略の実行**	カーブアウトによる有利子負債の圧縮や、グループ全体のバランスシートマネジメント強化
5	**経営戦略に応じた人的資本戦略**	デジタルセキュリティの価値を創るプロフェッショナル人材の育成と活躍できる環境整備
6	**市場との対話（IR）強化**	セキュリティ銘柄としての認知とともに、インタラクティブな対話でファン投資家獲得
7	**オペレーショナル・エクセレンス**	提供価値最大化視点での、事業運営、業務プロセスの抜本的な見直しで収益性を向上

© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード3967）

28

3ヵ年経営計画 | **KPI進捗**

	施策	KPI項目・集計頻度	増減	増減・実績・目標（2029年2月末）	KPI項目・集計頻度	増減	増減・実績・目標（2029年2月末）
1	成長事業である IRI事業の拡大	ID数（分析対象のユーザー） 毎四半期	↑	29.3万ID / 45万ID	ターゲット企業300社カバー率 通期で一度	－	4% / 10%
2	新たな成長事業の育成	AIガバナンス領域累積クライアント数 毎四半期	↑	7社 / 200社以上	ARR20百万円以上クライアント数（SR領域のみ） 毎四半期	↑	4社 / 10社
3	ポートフォリオ再構築	連結営業利益率 毎四半期	↓	3.0% / 12.0%以上	コア事業売上高比率 毎四半期	↓	31.5% / 50.0%以上
4	規律ある財務戦略の実行	自己資本比率 毎四半期	↑	32.9% / 40%以上維持	－		－
5	経営戦略に応じた人的資本戦略	市場平均を上回る給与の人材比率（2024年度のグレード全国平均値からの比較） 通期に一度	－	34.3% / 50%以上	eNPS（Employee Net Promoter Score）※1 半期に一度	－	▲74.1（2026年5月末実施） / ▲50.0
6	市場との対話（IR）強化	個人投資家の増加 毎四半期	↑	4,533名 / 1万人以上	IR面談数 毎四半期	↑	4件 / 20件/年間
7	オペレーショナル・エクセレンス	エルテス単体の1人あたり営業利益 通期に一度	－	248.9万円 / 500万円以上	全社内用比率の低減（デジタルセキュリティ売上対比） 通期に一度	－	23.2% / 15.0%以下

※1：eNPSはベイン・アンド・カンパニー、フレッド・ライクヘルド、NICE Systems, Inc.の登録商標です。「当社の取扱商品（ビジネス）を親しい友人や仕事仲間にどれくらい推奨したいと思いますか？」という問いに0～10の数値で答えてもらい、9-10を「推奨者」、7-8を「中立者」、0～6を「批判者」として引いた数値です。

© 2004-2026 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード3967）

29

そのための 7 つの重点施策と KPI の進捗についてもまとめています。前四半期からの進捗としては、IRI の ID 数やクライアント数、自己資本比率は改善しています。フィジカルセキュリティが好調なことで、連結営業利益率やコア事業売上高比率はやや下向きになっておりますが、フィジカルセキュリティが非常に想定を超えた好調であるというところが影響していると思います。あとは、個人投資家数や IR 面談は少しずつ増えています。

以上、2027 年 2 月期第 2 四半期の決算概要についてご説明いたしました。当社は「量から質へ」の変革を掲げ、不採算・非コア事業のカーブアウトによるバランスシートのスリム化と、高成長・高収益なセキュリティコア事業への集中を進めております。上期の成果は、この構造改革が正しい方向へ着実に進んでいることを証明するものと考えております。下期におきましても、過去最高益の更新にとどまらず、中長期的な企業価値・株主価値の最大化に向けて社員一丸となって邁進してまいります。
投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援とご期待をよろしくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

Q1．現在大量のデータを取得できる法人向けプランは月額数百万円～数千万円規模の非常に高額な契約ではないか。

X 社の法人向けプランの費用体系に関するご指摘かと存じます。ご指摘の通り、月額数百万円規模に至る高額な契約ではございますが、これらはサービスを提供する上で欠かせない原価費用として認識しております。デジタルセキュリティ事業全体としては、こうした費用を含めてもなお高い収益性を確保できております。さらに、今回の契約変更により限界利益率の上昇など、ポジティブな影響が複数生じております。お客様からいただいている金額も多い分、データの仕入れコストも相応の金額となりますが、事業運営に必要な原価として適切に捉えております。

Q2．セキュリティ業界におけるエルテスの立ち位置を教えてください。

「エルテスはサイバーセキュリティの会社なのか」と尋ねられることがあります。狭義のサイバーセキュリティ、すなわちサイバー空間における外部からの攻撃を防ぐ領域をサイバーセキュリティの会社としてイメージされるかもしれませんが、当社が注力しているのは厳密にはその領域ではございません。

しかしながら、最近のサイバー攻撃のトレンドを考慮すると、外部から侵入した後に内部者になりすまして情報を持ち出す手法や、AI エージェントや社員による生成 AI の利用に伴い、意図せず社外秘情報を AI に読み込ませて漏洩させてしまうといったリスクが急増しております。

こうした状況下において、広義のサイバーセキュリティや情報漏洩対策として、組織内部のリスクに着目するソリューションの重要性は高まっていると認識しております。外部からの攻撃の対策を中心とする競合他社が多い中、内部リスクの検知に特化している点において、当社は非常にユニークな立ち位置を確立できていると考えております。

Q3. IRI の期間限定値引きが売上を押し上げたが、営業利益減はこれが影響していないか。

IRI では、値引き（期間限定の割引）のプロモーションを一部実施しておりました。しかしながら、これはセグメント営業利益を大きく損なうような規模のものではございません。当社では、今後の大きなトレンドとして、内部脅威の中でも「AI エージェント自体が内部脅威化する」事態を想定しており、そうした AI エージェントの挙動をリスク検知していく取り組みや、すでに開示しているような AI 領域への先行投資が利益に影響を与えている認識でございます。

Q4. IRI の値引き期間に導入検討した企業の何割が固定客になると想定していますか。

過去の PoC（概念実証）の実績から見ても、本契約・本導入へと移行する割合は全体のおよそ 4 割程度にとどまっており、この転換率の低さはサービスとしての 1 つの課題と認識しております。そのため、今回のお試し期間で導入を検討、あるいは短期導入いただいた企業様がそのまま継続的なお客様へと定着していただけるかについては、引き続き課題があると考えております。

本導入率が 4 割程度にとどまる主な要因としては、当サービスが情報流出等のリスク行動を検知する仕組みである点が挙げられます。試用期間中にたまたま不審な挙動が検知されず問題が発生しなかった場合、「本当に導入の必要があるのか」という判断に傾きやすい傾向がございます。一方で、重大なリスク検知につながり「非常に高い価値がある」と評価いただくケースもあります。（サービス性質上）継続的な運用に意味もあるため、お客様とのコミュニケーションで「まずは短期でやりましょう」と提案してしまうと十分な価値を実感していただけないことがあります。最低でも 1 年間は運用いただくなどサービス設計上の議論を深めていく余地があると考えております。